

1. プログラムの名称

データヘルスサイエンス入門プログラム

2. プログラムにおいて身に付けることができる能力

全ての学生が、データ駆動社会の動向を知り、保健・医療・福祉の分野における新たな価値の創造に向けて、データ・AI を利活用する思考を身に付けることができるように学修します。また、目的に応じてデータを収集し、集計し、グラフ化するパソコン技術を習得し、比較可能なデータから得られる情報によって、健康課題を分析し、その解決に役立てる思考を身に付けます。

3. プログラムの開講科目及び修了要件

1) 本プログラムの開講科目

科目名称	開講学科・学年	単位数・必修選択の別
データヘルスサイエンス入門	看護学部看護学科 1 年	1 単位・必修
コンピュータリテラシー	看護学部看護学科 1 年	1 単位・選択
データリテラシー基礎	看護学部看護学科 1 年	1 単位・必修
疫学 I	看護学部看護学科 1 年	1 単位・必修
データリテラシー演習	看護学部看護学科 2 年	1 単位・選択

2) 修了要件

上記科目のうち、必修科目（データヘルスサイエンス入門＜1 単位＞・データリテラシー基礎＜1 単位＞・疫学 I ＜1 単位＞） 合計 3 単位を修得すること。

4. 授業の方法及び内容

1) 授業の方法：

AI の医療分野への応用例や情報倫理について調べ、数理・データサイエンス・AI の活用への関心を高め、将来展望を考察します。また、Microsoft Excel や統計ソフトを使ったデータ分析を体験することで、健康に関するデータを取り扱うための基本的なパソコン技術を修得し、データ分析のリテラシー力を高めます。

2) 各授業の内容：ホームページ（データヘルスサイエンスに関するページ）に掲載。

3) 本プログラムと数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムのモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の対応

＜参考＞数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムモデルカリキュラム

(http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy.pdf)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(データヘルスサイエンス入門プログラム)とモデルカリキュラム対応表

本学科目				数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム・モデルカリキュラム(リテラシーレベル)														
科目名	対象学科・ 開講学年	履修 区分・ 単位数	※＝ プロ グラム 修了 要件 科目	導入						基礎			心得		選択			
				社会におけるデータ・AI活用						データリテラシー			データ・AI活用にお ける留意事項		オプション			
				1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-6	4-7	4-8
				社会で起 きている 変化	社会で活 用されて いるデー タ	データ・ AIの活用 領域	データ・ AI活用 のための 技術	データ・ AI活用の 現場	データ・ AI活用の 最新動 向	データを 読む	データを 説明する	データを 扱う	データ・ AIを扱う 上での留 意事項	データを 守る上で の留意事 項	統計およ び数理基 礎	画像解析	データハ ンドリング	データ活 用実践(教 師あり学 習)
データヘルス サイエンス入門	看護・1	必修・1	※	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●		
コンピュータ リテラシー	看護・1	選択・1										○						
データリテラシー 基礎	看護・1	必修・1	※		●					●	●	●						
疫学Ⅰ	看護・1	必修・1	※							●			●	●				
データリテラシー 演習	看護・2	選択・1								○	○	○				○	○	



内容
・数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること(上記1-1、1-6)
・数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常社会や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること(上記1-2、1-3)
・様々なデータ活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること(上記1-4、1-5)

内容
・実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること(上記の2-1、2-2、2-3)

内容
・数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること(上記の3-1、3-2)



●はプログラム修了要件科目でモデルカリキュラムと対応する科目、○はプログラム修了要件外でモデルカリキュラムと対応する科目

5. 実施体制

- ・プログラムの運営：教育の質向上委員会
- ・プログラムを改善・進化させるための体制：教育の質向上委員会
- ・プログラムの自己点検・評価を行う体制：教育の質向上委員会